



市長日記

新入生にエール

市内小・中学校の入学式が一斉に行われた4月9日。今年度の新入生は小学生256人、中学生278人。各校に祝詞を送り、山佐小学校入学式に出席して祝いの言葉を述べました。

子どもたちがいきいきと成長できるよう、今後も学校を中心としたサポート体制に力を入れていきます。



山佐小学校の新入生2人とその家族、教員と記念撮影。



まちの話題や
出来事を
紹介します

たうんとぴっくす

TOWN TOPICS

今月の1枚



安来節保存会による「こども安来節」の公演が行われました。今回は本部道場だけでなく、近隣支部からも若者が出演。所属の枠を超えて、その場で組み合わせを変えながら、次々と安来節を披露しました。

4月6日：安来公園演舞場



このマークの記事は、関連写真を「市公式フェイスブック」で公開しています。



▲毎年たけのこ祭りに訪れるという人が多く、中には3袋いっぱいにとけのこを買う人も。

島田特産タケノコの祭り

「たけのこ祭り」が4月14日に道の駅あらエッサで開催されました。この祭りは、タケノコの販売や重量当てクイズ、タケノコを使った商品販売などタケノコ尽くしのイベントです。訪れた人は前年を大幅に上回り、用意された600kgのタケノコは開始15分ほどで半分になっていました。

島田加工農業協同組合の岩崎義明組合長は「今年は一気に暖かくなったことで、大ぶりで立派なタケノコがたくさん取れました。その日の朝に取れた新鮮なタケノコですよ」と話しました。

3月29日に、Uターン就職がテーマのパンフレット「YASUGI WORK BOOK」のお披露目が市役所安来庁舎でありました。

制作者は安来高校2年生の福山乙姫さん、岩崎冬華さん、高松晏奈さん。人口減少への問題意識から、卒業等がきっかけで市外転出が多くなる高校生向けに、読みやすい冊子づくりに取り組みました。福山さんは「学習する中で、安来の企業について知り、自分自身の働くイメージも確固としたものになりました」と話しました。



▲冊子を持って記念撮影。冊子は同校生徒への配布や、図書館への設置等、活用を検討しています。

地元就職者増加のために



①

春うららかなひなまつり日和に

雪の白が散らついた3月中旬から一転し、暖かな日が多かった3月下旬。市内各地で、桜に関する催し物やひなまつり等、春のイベントが多数開催されました。

「尼子の里富田のひな流し」は3月31日に歴史資料館側の飯梨川河川敷で開催。今年も300体の流しびなが用意され、訪れた人に手渡されました。当日はあいにくの曇り空でしたが、咲き出した桜と鮮やかな法被が会場を華やかに彩りました。

旧奥野邸、後藤邸、はくた文化学習館等でひな飾りが展示された「城下町母里のおひなまつり」。期間中、3月31日ははくた文化学習館横の駐車場で、母里っ子太鼓などが出演するステージイベントも開催されました。



②



③

①ひな流しの様子。俵を川に浮かべたら、手を合わせて願いをひな人形に託しました。

②はくた太鼓のパフォーマンス。響き渡る音に、周囲を散策していた人も集まり、見入っていました。

③地域の人が寄贈したひな飾りを見て回る来場者。中には、大切に保管されてきた明治時代のひな飾りもありました。

4月5日に、地域おこし協力隊員の委嘱式を安来庁舎で行いました。地域おこし協力隊とは、隊員が地域に一定期間居住し、地域のための活動を行いながら、その地域への定住を目指す取り組みです。

翠梨重さんと中島海さんの2人が今回隊員に。翠さんは市内介護職・職場の魅力発信、中島さんは移住定住の推進に向け活動します。中島さんは「安来でのインターンシップから、安来に住み、安来のため活動しよう決めました。隊員として地域活性化の一助となるよう取り組みます」と話しました。



▲今回で地域おこし協力隊員は累計16人になりました。5人が現役の隊員として活動中です。

安来を第2のふるさとに



▲田中市長（左）とウィーメックス株式会社の高橋秀明代表取締役社長（右）。

地域医療の課題解決を

企業版ふるさと納税として、ウィーメックス株式会社より遠隔医療システム「Teladoc HEALTH」4台とその5年間の運用経費相当額の寄付がありましたので、4月15日に田中市長から感謝状を贈呈しました。

このシステムは安来市立病院に設置され、専門医が常駐していなくても遠隔地の専門医から指示を受け、適切な医療を行うことができます。また、持ち運び可能なタブレットモデルもあり、医師は病院にいたまま患者さんの状態を確認し、指示を出せるため在宅医療でも活用することができます。

